

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

様式1(小・中)

達成度(評価)  
 A: 十分達成できている  
 B: おおむね達成できている  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

学校名	唐津市立加唐小中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的コミュニケーション能力の育成に向けた研究の継続により、児童生徒が主体的に学ぼうとする方や発達段階に応じた「話す力」「聞く力」を高めることできた。</li> <li>極少人数のよさを生かした個別の対応を充実させることで、学習面・運動面・生活面において十分な高まりや結果が見られた。</li> <li>職員間の連携、学校と家庭・地域との連携を十分に図りながら、一体感のある教育活動を展開することができた。</li> </ul>
2 学校教育目標	郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成 - 知、徳、体のバランスの取れた児童生徒の育成を通して -
3 本年度の重点目標	①地域とともにある学校づくり(体験活動を通じたふるさとの魅力を発見・発信する活動) ②離島へき地教育の推進(児童生徒の実践的コミュニケーション能力を育むための研究)

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「周囲に対して思いやりをもって接することができている」と回答する児童生徒を80%以上にする。	・各教科、特別活動など教育課程全般において道徳教育の推進を図るよう教職員間の共通理解を図る。	B	・「周囲に対して思いやりをもって接することができている」と回答した児童生徒が85%、保護者が80%と目標は達成することができたが、時より友だちへの暴言や悪口も見られた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上とする。	・いじめの認知・覚知の職員間の共通理解を図る。 ・いじめ対応についての職員研修を年間2回以上行う。	B	・「学校はいじめなどのない楽しい学校づくりに努めている」と回答した教員が95%であり、おおむね達成できた。いじめ対応についての研修・会議を本年度、1回しか行うことができなかった。
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(1・2・3・5年生)、生徒(2年生)100%にする。	・児童生徒の希望をもとにした職業講話を仕組む。 ・各行事や児童生徒会(ゆうき会)において、児童生徒の自主性を生かし、見通しをもたせ、学びの振り返りを行わせる。	A	・将来の夢や目標があると回答した児童生徒は87.5%で、文化祭の音楽発表では全員が自分の夢ややりたい人物像を発表できた。 ・職業や仕事に関する学習を学年に応じて設定し、夢や目標、職業について考えることができた。 ・児童生徒会活動について、下級生も行事の運営に携わる機会を設定していきたい。
●健康・体づくり	◎「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	◎「健康に食事は大切である」と考える児童生徒を100%にする。	・毎日朝食を食べているかのチェックを行う。朝食を食べることが大切であることがわかり、朝食を必ず食べようとする態度を育てる。	A	・毎日朝ごはんを食べる児童生徒は97.5%であった。 ・食に関するリーフレットを配布し、バランスなどについても指導を行った。
	○健康に関する自己管理能力の育成	○帰宅時や食事前に丁寧に手洗いやうがいができる児童生徒を100%にする。	・正しい手洗いうがいの方法を指導し、年間を通して啓発を行う。	A	・手洗いの方法を掲示した結果、児童生徒の中に「手洗いの15秒ルールを守りましょう」と、他の児童生徒に呼びかけをしている姿があり正しい手洗いをする意識を高めることができた。健康観察簿の調査でも手洗いが出来ていることを確認した。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の徹底 ・長期休業中の年休取得の促進 ・部活動休養日の設定 ・学校閉庁日の設定	A	・時間外勤務については、月45時間を下回っている。長期休業中は、年休取得促進期間を設け、働き方改革を推進することができた。来年度は、定時退勤日徹底の意識を高めたい。
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果
				○複式学級指導の充実	○複式学級指導の専門性の向上
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・コロナ禍の中で、少しずつ学校の本来の学習活動や行事等への取り組みを進めることができた。今後は、児童生徒の学びを止めないため、タブレット端末を活用したリモートによる授業スタイルの確立が必要である。また、今後も複式学級は継続するため、より効果的な学習指導の方法を検討していきたい。 ・小学校・中学校とも、テレビ会議システムやタブレット端末を利用した他校との合同スピーチ等を実施し、交流活動を継続できている。今後は、さまざまな人々との交流活動を行いながら、より一層心の教育の充実を図りたい。 ・教職員が健康で、日々の教育活動に取り組めるよう、特に長期休業中は年休取得促進期間を設けた。また、部活動の負担を減らすため部活動終了時刻の見直しを行った。今後は、さらに業務の改善や効率化を進めていきたい。
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------